

# 「危険情報」表現の変更

## 変遷

1980年代後半～1997年12月17日 「渡航情報」(3段階), 「退避勧奨・退避勧告」(2段階)

1997年12月17日～2002年4月25日 「海外危険情報」: 危険度の数字表記, カテゴリーの名称をわかりやすく  
2002年4月26日～現在 「危険情報」: 危険度の数字・タイトル表記から文章方式に変更, 4段階に

現在

→ わかりやすい表現に改める

「退避を勧告します。  
渡航は延期して下さい。」

「退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」

「渡航の延期をお勧めします。」

「渡航は止めてください。(渡航中止勧告)」

「渡航の是非を検討してください。」

「不要不急の渡航は止めてください。」

「十分注意してください。」

「十分注意してください。」(同じ)

## これまで記載していた危険情報の以下の頭書きを削除

※ 本情報は、海外に渡航・滞在される方が自分自身の判断で安全を確保するための参考情報です。本情報が発出されていないからといって、安全が保証されるというものではありません。

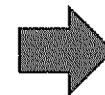
※ 本情報は、法令上の強制力をもって、個人の渡航や旅行会社による主催旅行を禁止したり、退避を命令するものでもありません。

※ 海外では「自分の身は自分で守る」との心構えをもって、渡航・滞在の目的に合わせた情報収集や安全対策に努めてください。

# 危険情報の目安

## 「退避を勧告します。渡航は延期してください」

・その国・地域に滞在している全ての日本人の方々に対して、滞在地から、安全な国・地域への退避(日本への帰国を含む)を勧告するものです。この状況では、当然のことながら新たな渡航は延期してください。



## 「退避してください。渡航は止めてください(退避勧告)」

・その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

## 「渡航の延期をお勧めします」

・その国・地域への渡航は、どのような目的であれ、当面控えるようおすすめするものです。また、場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。



## 「渡航は止めてください(渡航中止勧告)」

・その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。(場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)

## 「渡航の是非を検討してください」

・その国・地域への不要不急の渡航は控えるようおすすめするものであり、渡航すべきか否かは、渡航目的の緊急性、とりうる安全対策等に応じて検討を行った上でご自身で判断されるようお願いするものです。

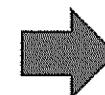


## 「不要不急の渡航は止めてください」

・その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。

## 「十分注意してください」

・その国・地域への渡航、滞在に当たって特別な注意が必要であることを示し、危険を避けていただくよう、おすすめするものです。



## 「十分注意してください」

・その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。